

中海・宍道湖・大山圏域振興ビジョン(案)に関するパブリックコメント(意見募集)の結果
及び意見に対する市長会の考え方について

1 意見募集の結果について

1	募集期間	平成24年12月25日(火)～平成25年1月18日(金)
2	資料公開場所	別紙のとおり
3	意見提出者数	4件
4	意見の項目数	9項目

2 中海・宍道湖・大山圏域振興ビジョンについて

この度策定する「中海・宍道湖・大山圏域振興ビジョン」は、本圏域が一体的に発展してための目標と指針を示すものとして位置づけています。その大まかな指針として、「活力にあふれず圏域づくり」「訪ねてみたい圏域づくり」「住みたくなる圏域づくり」「ともに歩む圏域づくり」の4つの柱をお示ししています。

こうした振興ビジョンの性格上、具体的な個別事業(取り組み)については、記載しておりません。具体的な取り組みについては、各年度の事業計画作成時に検討し、実施する考えです。

2 意見の概要と市長会の考え方について

No	意見の概要	市長会の考え方
1	林業関係団体や先導的なグループと連携して、林業施業によって発生している林地残材等の未利用森林資源を木質バイオマスとして活用していく先進的な取り組みを入れてほしい。	森林資源を木質バイオマスとして活用することは、圏域の産業振興や環境保全を推進する手法の一つであると考えます。 ご提案いただきましたご意見につきましては、圏域全体として取り組むことが可能かを含め、検討して参りたいと考えています。
2	【自然環境について】 中海・宍道湖の環境浄化対策による、水質の保全が第一である。	中海の水質保全については、関係省庁や鳥取・島根両県、沿岸自治体などで構成する「中海会議」や「中海水質汚濁防止対策協議会」で協議されています。 同様に宍道湖でも、「宍道湖水質汚濁防止対策協議会」や「宍道湖水環境改善協議会」の場で協議されています。 このほかにも、多くのNPO団体などが水質保全に取り組んでおられますので、こうした関係団体のご意見を伺いながら中海・宍道湖の水質保全に有効な手法は何か今後検討して参りたいと考えています。
3	【産業振興について】 中海でのサルボウ貝(赤貝)の養殖を復活させてはどうか。	中海でのサルボウ貝(赤貝)の稚貝放流については、島根県と松江市が平成20年度から実施しておられます。 市長会といたしましては、関係団体と連携をしながら、中海の水産振興と水質保全に有効な手法は何か今後検討して参りたいと考えています。

4	<p>【産業振興について】 境港を活用した貿易の振興 (特に中国・韓国・ロシア向け)</p>	<p>日本海側拠点港である境港には、韓国(東海市)、ロシア(ウラジオストク市)に環日本海国際フェリーが就航しているとともに、近年では外航クルーズ船も数多く寄航しています。振興ビジョン(案)においても、圏域発展に向け「北東アジアに向けたゲートウェイ機能の向上と活用」を掲げているところであり、境港の優位性を多いに活用して参ります。</p>
5	<p>【観光振興について】 行政と観光協会の連携強化が必要 (連携した企画)</p>	<p>市長会構成5市(米子市・境港市・松江市・出雲市・安来市)の各観光協会で、「中海・宍道湖観光協会会議」が平成23年度当初より組織されています。これまでも、市長会の観光関連事業を検討する際には、当該観光協会会議からも参加いただき、一緒に協議を進めるとともに、市長会事業の一部を観光協会会議へ委託し、実施して参りました。今後も、ご指摘のとおり連携した取り組みを進めて参ります。</p>
6	<p>【観光振興について】 境港・大根島・米子・安来・松江間の中海航路の復活(桜・牡丹のシーズンに運行してはどうか) 各観光地間を結ぶ交通機関の連携 各市の駅を結ぶ連携交通網づくり</p>	<p>中海における水上交通については、「中海・宍道湖・大山圏域観光連携事業推進協議会」によって平成18年～20年度にそれぞれ試験運行が行われましたが、採算性の課題もあり定期運行を見送られた経過があります。また、平成22年から5月の連休に行われている「大根島ぼたん祭」と「やすぎ刃物まつり」を結ぶ交通手段として運行されており、平成24年は5月3日に4往復8便の運行が行われました。(平成25年度も運行予定) 併せて、旧中海市長会では、「松江～大根島～米子鬼太郎空港」や「皆生温泉～水木しげるロード」を結ぶバス運行の実証実験を行い、定期路線化へつなげてきた経過もあります。 ご提案いただきました観光2次交通の充実を図る手法につきましては、関係団体等と連携し検討して参りたいと考えています。</p>
7	<p>【住みたくなる圏域づくり】 子育て支援の充実を追加してはどうか。 例えば、〇歳未満の子どもへの医療費を軽減するというのはどうか。</p>	<p>この振興ビジョンは、「圏域にある既存の資源をいかに活かすか」という点に着目をし、広域連携を図ることにより効果的と考えられる代表的な分野を重点的にまとめたものです。 ご指摘のとおり、子育て支援や高齢者・障がいをお持ちの方への支援など、皆さんが「住みたくなる圏域づくり」には、重要であると考えますが、各構成市の施策に大きく影響するものでもあります。こうした、構成市の施策に関わる支援については、各自治体で充実を図り、圏域全体の底上げにつなげたいと考えております。</p>
8	<p>境港市の特徴に「伯州綿」の栽培、製品化があっても良いのではないかと。</p>	<p>ご指摘の点については、「構成自治体の特徴」、境港市の記述に追記いたします。</p>
9	<p>各市のウォーキング大会を連結(連日開催)し、「ツーデーマーチ」のような圏域一体となったイベントを行ってはどうか。そうすることで、圏内参加者はもとより、県外の方々の参加も期待でき、魅力や文化、歴史を広く伝えることが可能となる。このような、圏域自治体が育てたイベントも資源としてとらえ、再編成をして拡大していくことも必要と考える。</p>	<p>圏域が一体となったイベントは、圏域の魅力を広くPRできる有効な手段の一つと考えます。 ご提案いただきました件につきましては、各市で行われているウォーキング大会の日程調整が可能かどうかを検討して参りたいと考えています。</p>